

学校だより 豊かな人間性を持ち 人や地域と関わりながら たくましく生きる生徒



頓原中学校

弥山の風

みんなで作る みんなの頓中

第23号

2020.5月

文責 久村真司



特集 新型コロナウイルス

まず、ノーベル賞科学者 山中伸弥 博士の、この文章をお読みください。

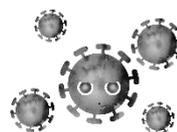
新型コロナウイルスへの対策は長いマラソンです。都市部で市中感染が広がり、しばらくは全力疾走に近い努力が必要です。また、その後の持久走への準備も大切です。感染が拡大していない地域も、先手の対策が重要です。私たちが一致団結して正しい行動を粘り強く続ければ、ウイルスの勢いが弱まり、共存が可能となります。自分を、周囲の大切な人を、そして社会を守りましょう！

(5月8日 「山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信」サイトより)

<http://www.covid19-yamanaka.com/>

今月号は、すべての紙面を新型コロナウイルス対策に割きました。そして、次の二つのことをお伝えしようと思います。

1. 新型コロナウイルスに関する確かな知識
2. 学校で行っている対策



まず、「**確かな知識**」に関しては、山中伸弥博士の特設ページから紹介します。

より最新の知見は、様々な科学雑誌やネット配信(マサチューセッツ工科大学テクノロジーレビュー等)で紹介されていますので、そちらをご覧ください。ここでは、エビデンス(証拠)の裏付けがある、ほぼ「**確定**」していることを紹介します。

次に、「**学校で行っている対策**」では、まず感染症拡大防止対策とそれに関する教育について。さらに ICT を活用した実践を紹介します。後述しますが、「ウィズ・コロナ」「アフター・コロナ」を生きる生徒たちにとって、ICT活用能力は必須能力です。中でも、ウェブ会議システムや遠隔授業を活用するスキル。さらに、それを支える基盤としての、自己管理能力が求められます。状況認識力と自己管理能力が十分でない生徒(大人も)は、危機に直面すると転げ落ちてしまいます。

文科省としての現状認識と ICT 整備についての考え方については、**5月11日**に YouTube「GIGA スクール」チャンネルでのライブ配信「**学校の情報環境整備に関する説明会**」で明確に述べておられますので、そちらをご覧ください。



新型コロナウイルス感染症に対する確かな知識

—— ips 細胞の山中博士による情報発信 ——

● 証拠（エビデンス）があり、正しい可能性が高い情報

病 態

- ・ 国、地域により致死率異なる。

(5月1日のデータ)

世界全体	: 7.1%		
韓国	: 2.3%	日本	: 3%
ドイツ	: 4%	アメリカ	: 5.8%
中国	: 5.5%	スペイン	: 10%
フランス	: 14.5%	イタリア	: 14%
イギリス	: 15.7%		

- ・ 感染後、症状が出るまでの潜伏期間は1から17日とばらつきがある。(平均は5~6日程度)
- ・ 感染しても30~50%では症状が出ない。(無症状の割合はもっと高い可能性もある)
- ・ 感染してもPCR検査で陰性となる場合がある。
- ・ 発症しても多くの場合は発熱や咳などの軽症。
- ・ 高齢者や持病を持つ患者を中心に一部の患者では肺

炎等で重症化、致死率も高い。

感 染

- ・ 一人が何人に感染させるか(再生産数)に関して、何も対策がなく誰も免疫を持っていない時の基本再生産数(R0)は2以上、しかし、公衆衛生上の対策により有効再生産数は1未満にすることができる。
- ・ 咳等の飛沫とドアノブ等を介しての接触で感染する。
- ・ 集団感染(クラスター)が世界各地で報告されている。
- ・ クラスター以外(家庭内など)でも感染する。
- ・ 症状がなくとも、他の人に感染させる場合がある。

対 策

- ・ 手洗いやマスクしていても感染することがある。
- ・ ワクチンはまだ開発されていない。
- ・ 効果の証明された治療薬はない。

● 正しい可能性があるが、さらなる証拠（エビデンス）が必要な情報

病 態

- ・ 年齢に関わらず、感染者の約半数では症状が出ない。
- ・ 子供では感染して発症しても軽症が多い。ただし重症化することもある。
- ・ 食欲不振や下痢が主な症状の場合もある。
- ・ インフルエンザと同時に感染することがある。
- ・ 心臓の筋肉にも感染し、心不全を起こす。
- ・ 嗅覚や味覚異常が主な症状の時もある。

感 染

- ・ 微小粒子で数時間生存し、感染の原因となる。
- ・ 帝王切開でも母子感染する可能性が稀にある。

対 策

- ・ 手洗い消毒は感染予防にある程度は効果ある。
- ・ 感染している人がマスクをすることにより、他の人への感染を減らすことができる。
- ・ 1~2年でワクチンが開発される。
- ・ 抗HIV薬、抗インフルエンザ薬、抗ぜんそく薬など他の病気の薬が効果がある。

● 正しいかもしれないが、さらなる証拠（エビデンス）が必要な情報

病 態

- ・ 喫煙者は重症化しやすい。

感 染

- ・ 多くの感染者が無症状、もしくは軽症なのは、自然免疫が関与している。

対 策

- ・ 感染しても80%の人は、他人に感染させない。
- ・ 感染していない人がマスクをすることにより、感染予防に効果がある。

● 証拠（エビデンス）の乏しい情報

病 態

- ・イブプロフェンは症状を悪化させる。

感 染

- ・暖かくなると感染は終息する。

対 策

- ・中国は対策に成功したので、感染拡大が再び起こることはない。
- ・感染者の報告されていない都道府県では、感染拡大の可能性は低い。
- ・屋外のイベントではクラスターの心配はない。

（着替え、食事、トイレなど、室内で人が集まればクラスターの危険あり。）

- ・BCG接種をしている国は、新型コロナウイルスの感染者数や死亡者数が少ない。

（傾向はみられますが、BCG接種が新型コロナウイルスの感染に影響するという科学的な証拠は今のところありません。）

その他

- ・新型コロナウイルスは人工的に作られた。

2

学校で行う対策と実践

- I 「新しい生活様式」の定着
- II コロナウイルス及び感染症に対する正しい理解を進める指導
- II ICT活用教育の推進

手を洗おう



「新しい生活様式」とは、「感染拡大を予防する新しい生活様式」として、専門家会議から提言されたものです。最終ページに掲載したものは厚生労働省の解説ですが、NHKほかメディアでも丁寧に解説しています。

この「新しい生活様式」は、少なくとも、新型コロナウイルス感染症が終息するまで続けなくてはならないとされています。

学校では、詳しい対策要領を作っていますが、それはA4版で数ページに及びますので、ここでは重要な点のみお知らせします。

【身体的距離の確保・マスク・手洗い】

- ・生徒数が多い2年生は、当面技術室をホームルームにする。
- ・トイレ・手洗いの場所を割り当てることで、密集を避ける。
- ・グループ学習や討議はウェブ会議システムを使う。
- ・学年別・男女別に広い更衣場所を割り当てる。
- ・登校後、給食前後、トイレの後、体育の後などのこまめ

な手洗いをを行う。

- ・休憩時間を長くするなど、手洗いの時間を確保する。
- ・マスクの着用
- ・給食は、2年生がランチルームを使い、1・3年生は多目的教室で配膳して各教室で食べる。

※これらのことは、最新情報を加えて随時「学校だより」や「ほけんだより」等でお知らせしています。

【正しい理解を進める指導】

- ・コロナウイルス感染症にたいする正しい理解を進めるとともに、差別につながらないように指導します。

リーフレット『新型コロナウイルス感染症の予防』（文部科学省）を活用した指導を行います。

なお、5月1日付で文部科学省から発出された「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について（通知）」に示された内容については、本校の判断で対応できることにはすべ

て対応していきます。

【 ICT活用教育 】

頓原中学校では、休校の長期化を予想し、昨年度末からICTの活用について研究を重ねてきました。4月初には、「今は有事。必要なものは買ってください。お金のことは後で考えます。」と職員に宣言し、タブレット

(ipad)を3台と、ワイヤレスヘッドセットなど、遠隔授業に必要な機材を揃えました。

しかしそれは、単に休校への対応・対策ということにとどまらず、Society5.0におけたGIGAスクール構想とい

う国の指針に沿って準備していたことでした。それが、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大によって早まったということです。

Society5.0およびGIGAスクール構想については、紙面の都合上説明を省きますが、ウェブサイトに詳しく説明されていますので、検索してみてください。

さて、休校中の生活・学習支援のために、インターネットを活用した次のような実践を、主として3年生に行ってきました。

1、YouTubeを使った授業配信

昨年度、梶川コーディネーターが頓原中学校の非公開YouTubeチャンネルを立ち上げ、総合的な学習の時間に行った生徒の発表等を配信していました。

休校措置に伴い、そのチャンネルを活用して、保健体育・数学・英語・理科等の各教科の学習動画や、全職員が出演した手洗い動画などを配信しました。(右上の写真)



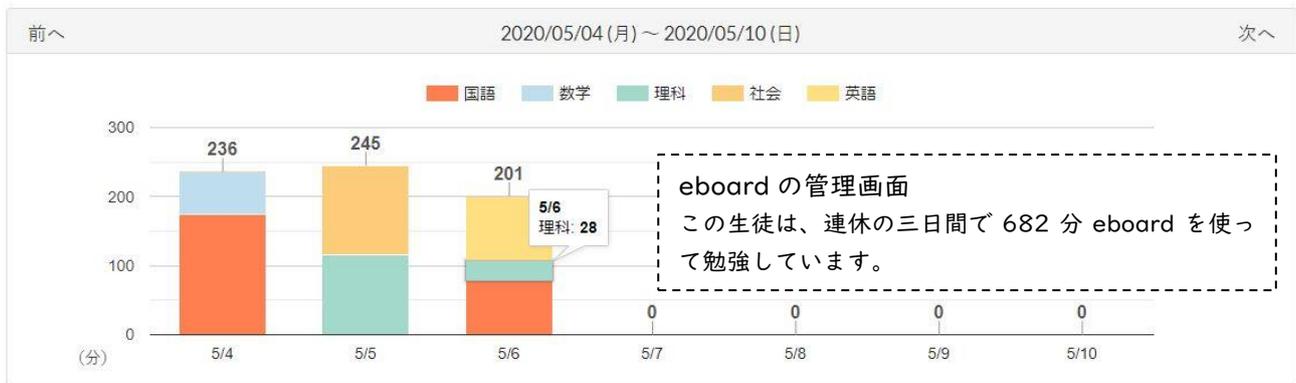
2. ICT教材 eboard (イーボード) を使った5教科の学習

NPO 法人 eboard による、無料のウェブ学習教材の学校アカウントを取得し、生徒全員のアカウント登録を行って活用しています。(右上の図)

学校アカウントがあると、教師側から生徒一人一人の家庭学習状況が把握ができ、適切な支援に結び付けることができます。(下図)



勉強グラフ 週 月 年 合計勉強時間：682分



3、ビデオ会議システム zoom や meet を使った「朝礼」や「授業」

休校中も生活リズムを保つために、ビデオ会議システムを使って「朝礼」を行いました。ビデオ会議システムは、今後再び休校措置が取られた場合に、教師が自宅からホームルームや授業を行う道を開くことになり、学校教育のセーフティネットとして機能します。

さらに、これからの社会を生きていく生徒たちにとって、テレワークに慣れることや自己管理能力を高めることは必須の能力となるはずで、また、学校が再開されても、対面によるグループ学習やペア学習をすることは認められていません。そういった中で、学校再開後においては、生徒総会やグループ学習などでビデオ会議システムを活用していきたいと考えています。



ビデオ会議システム zoom で朝礼をする3年生

4、教育用グループウェア G Suite for Education を使った学習環境整備

4 月当初に ton-chu.com の独自ドメインを取得し、すべての生徒と職員に「@ton-chu.com」ドメインのメールアドレスを割り振りました。

さらに、この独自ドメインで G suite for Education に登録。生徒一人一人にアカウントを割り振りました。

現在、各学年各教科で classroom を作成し、教材や課題をあげています。(右図)

また、「職員室」という classroom も作成し、職員研修や職員間の連絡に活用しています。



【なぜ ICT か】

ICT 活用教育の効果は、特に今の社会状況では ①**生徒の学習・生活支援と保障** ということになると思います。さらに、「アフターコロナ」を考えれば、②**テレワークの時代を生きる生徒たちに必要な資質・能力を養う** ということも重要な目的と効果になるはずです。

しかし、本質的かつ最大の目的と効果は、学校の学習と家庭の学習との境目をなくし、主体的で自覚的で個に応じた学習を実現するということです。

進度が早すぎてついていけない生徒も、ゆっくりすぎて退屈してしまう生徒もいない。そして、自由で主体的な「未来型の学び」の環境をつくるのが ICT を活用した教育の真のねらいです。

今、本校の職員は、予測される次のコロナの波に備えるという意味だけではなく、未来型の学びを創るという目的を持って ICT を活用しようとしています。



まことに手前味噌で恐縮ですが、我が国の ICT 教育をけん引してきた「JAET(日本教育工学協会)」の会員として 20 年以上、日本の ICT 教育を見つめてきた私から見て、今の頓原中学校には全国レベルの ICT 活用能力があると思います。わずか 1 か月でここまで成し遂げてくれた職員には、本当に頭が下がります。

本校の職員は、積み上げてきた ICT 活用スキルを、



上の図は、3年生の総合的な学習の時間の「classroom」「ストリーム」には、メッセージや資料が表示されます。「授業」には、課題やレポートやテストが表示されます。「成績」には、これまでの自分の成績が表示されます。

私は7日の夜に、自宅から3名の生徒の「解答」を確認しました。そして8日の朝、担当の先生と「〇〇さんがこういうかいとうしてたねえ。」などという会話が弾みました。

有事への備えとするだけでなく、生徒の学習に生かすために、今後一層磨いてくれると確信しています。

さらに、飯南町役場総務課山内孝之さんには、本校のフィルタリング及びファイヤーウォールの設定を再三にわたって修正していただき、ICT 活用の基盤を作っていただきました。あらためて、そのご支援とご労苦に感謝いたします。

「新しい生活様式」の実践例

(1) 一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の3つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

- 人との間隔は、**できるだけ2m（最低1m）**空ける。
- 遊びにいくなら**屋内より屋外**を選ぶ。
- 会話をする際は、可能な限り**真正面を避ける**。
- 外出時、屋内にいるときや会話をするときは、**症状がなくてもマスク**を着用
- 家に帰ったらまず**手や顔を洗う**。できるだけすぐに着替える、シャワーを浴びる。
- 手洗いは30秒程度**かけて**水と石けんで丁寧に**洗う（手指消毒薬の使用も可）

※ 高齢者や持病のあるような重症化リスクの高い人と会う際には、体調管理をより厳重にする。

移動に関する感染対策

- 感染が流行している地域からの移動、感染が流行している地域への移動は控える。
- 帰省や旅行はひかえめに。出張はやむを得ない場合に。
- 発症したときのため、誰とどこで会ったかをメモにする。
- 地域の感染状況に注意する。

(2) 日常生活を営む上での基本的生活様式

- まめに**手洗い・手指消毒** 咳エチケットの徹底 こまめに換気
- 身体的距離の確保 「**3密**」の回避（**密集、密接、密閉**）
- 毎朝で体温測定、健康チェック。発熱又は風邪の症状がある場合はムリせず自宅で療養



(3) 日常生活の各場面別の生活様式

買い物

- 通販も利用
- 1人または少人数ですいた時間に
- 電子決済の利用
- 計画をたてて素早く済ます
- サンプルなど展示品への接触は控えめに
- レジに並ぶときは、前後にスペース

娯楽、スポーツ等

- 公園はすいた時間、場所を選ぶ
- 筋トレやヨガは自宅で動画を活用
- ジョギングは少人数で
- すれ違うときは距離をとるマナー
- 予約制を利用してゆったりと
- 狭い部屋での長居は無用
- 歌や応援は、十分な距離かオンライン

公共交通機関の利用

- 会話は控えめに
- 混んでいる時間帯は避けて
- 徒歩や自転車利用も併用する

食事

- 持ち帰りや出前、デリバリーも
- 屋外空間で気持ちよく
- 大皿は避けて、料理は個々に
- 対面ではなく横並びで座ろう
- 料理に集中、おしゃべりは控えめに
- お酌、グラスやお猪口の回し飲みは避けて

冠婚葬祭などの親族行事

- 多人数での会食は避けて
- 発熱や風邪の症状がある場合は参加しない

(4) 働き方の新しいスタイル

- テレワークやローテーション勤務 時差通勤でゆったりと オフィスはひろびろと
- 会議はオンライン 名刺交換はオンライン 対面での打合せは換気とマスク

※ 業種ごとの感染拡大予防ガイドラインは、関係団体が別途作成予定